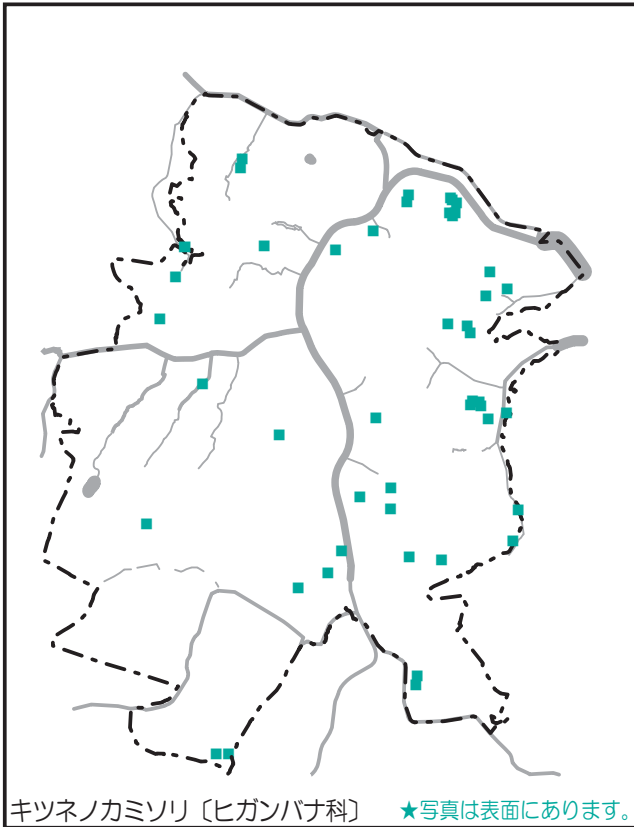




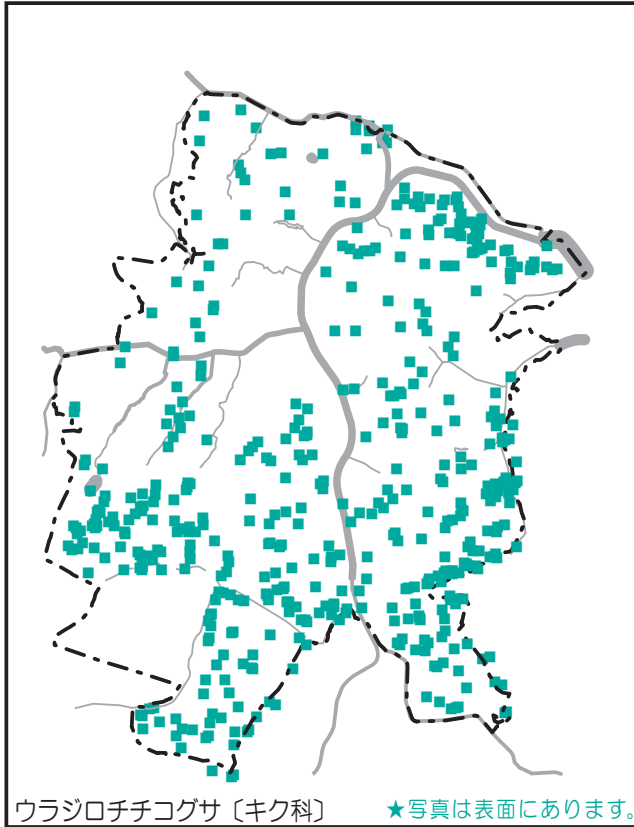
市民による生きもの調査

今回の調査では、市民調査員に身近な植物や動物それぞれ11種を対象に生育、生息地の情報を報告いただき、生きもの分布マップを作成しました。その中から自然性が保たれている目安になるような種や近年の都市化によって増えた種からそれぞれ一例を示します。



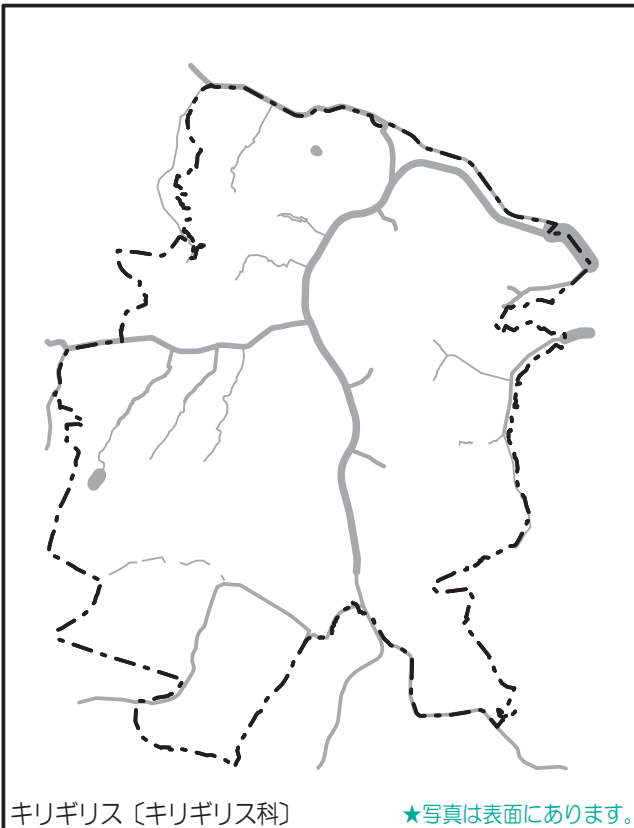
キツネノカミソリ〔ヒガンバナ科〕 ★写真は表面にあります。

多年草。早春の林床に細長い葉を出し、葉が枯れた夏に赤い花を咲かせます。昔ながらの雑木林の林床や林のふちに生育します。キツネノカミソリが見られるところは自然の豊かさの目安になります。



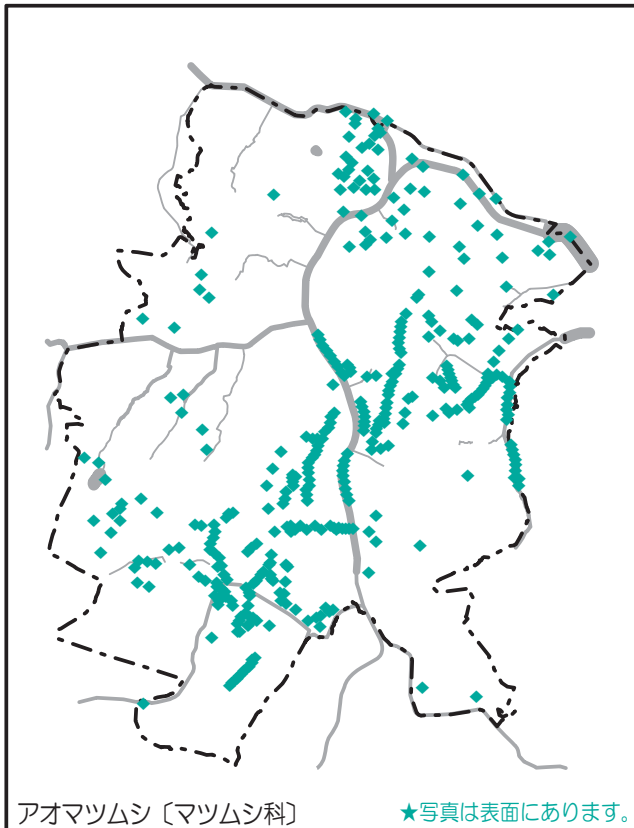
ウラジロチチコグサ〔キク科〕 ★写真は表面にあります。

越年～2年草。都市化とともに急速に広まった帰化植物（外来種）です。日当たりの良い道ばたや芝生、空き地、街路樹の植枿などに見られます。大部分の地域で記録されていますが、谷津の奥などでまだ侵入していないところもあります。



キリギリス〔キリギリス科〕 ★写真は表面にあります。

「チョン、ギース」や「ギーッ、チョン」と鳴く声が昔は普通に聞かれました。空き地や道路沿いの安定した草原に生息しています。成虫は6月中旬から8月に出現し、産卵は7月から8月、土中に1卵づつ産みます。



アオマツムシ〔マツムシ科〕 ★写真は表面にあります。

ウラジロチチコグサと同じように市内に広く記録されています。アオマツムシも帰化昆虫です。樹木の上で一を送ります。夜間飛翔して移動します。普通は9月上旬から鳴き始めます。公園、住宅、街路樹などいたるところの樹木の上で鳴きます。